ドラえもんおかしな小説 Ver.2

小河健太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ドラえもんおかしな小説　Ｖｅｒ．２

【Ｎコード】
Ｎ６４９７Ｖ

【作者名】
小河健太

【あらすじ】
以前書いていたドラえもんおかしな小説（削除済み）の次Ｖｅｒです。
まえよかキャラの性格が丸くなると思います（多分）
そして、のびハザのキャラもでてきます。

なんという始まり方・・・

２０１０年　７月　１７日　野比家

のび「あー、暇だなぁ～」
ドラ「そういえば昼過ぎに健太君がくるんだってさ」
のび「何故に？」
ドラ「暇だからだって」
のび「・・・」

昼過ぎ

健太「やー、のび太。　自転車には乗れるようになったか？」
のび「絶望的さ」
健太「おいおい、小学5年生にもなってまだ乗れないのかよ」
のび「うっせーなー、なにやってもダメダメな野比のび太だからしょうがないよ」
ドラ（そう思ってるといつまでもダメだよ。　のび太君）
健太（コイツのマイナス思考どうにかなんないのか？）
のび（どーせ一生乗れませんよ）

それぞれ考える。

健太「だったらさー、空き地で練習しねぇか？」
のび「何で？」
健太「いやー、ちょっとねー」
のび「？？？」

そこに健太に寄って行き、小声でドラえもんは言う。

ドラ（ちょっとって何？）
健太（のび太のヴァカに言わないならいいけど）
ドラ（言わない言わない）
健太（来週から夏休みだろ？）
ドラ（そういえばそうだ）
健太（サイクリングにでも逝こうかと）
ドラ（そういうこったね）↑行こうの字が違うのはスルー
健太（そういうわけだ。　つーわけで特訓させるぞ！）
ドラ（それなら協力するよ）
健太（頼むぜ！）

のび太の部屋

ママ「感到疲？，并且？使用而？行，得到」
のび「何て！？」
ママ「のびちゃーん！おつかいにいってちょうだい！」
のび「何で中国語？」
ママ「通信講座で習ったのよ」
のび「意味無い」
ママ「パパは韓国語よ」
パパ「？？　？，　？？　？？　？？？？　？　？　？・」
のび「また何て！？」
パパ「のび太、ついでにライターを買ってきてくれ。　って言ったんだ」
のび「Ｐｌｅａｓｅ，　ｔａｌｋ　ｉｎ　Ｊａｐａｎｅｓｅ！」
パパ「のび太は英語じゃないか」
のび「しまった！」
ママ「ま、いいわ。　行ってきてね」
のび「チェッ」

商店街

のび「メモに書いてあるものは買い終わった。　帰ろう」

すると！

のび「うわっ！」

のび太は路地に引き込まれ、バットで　殴られて気絶した。

次回へ続く

路地裏に引きずり込むってだいたいが恐喝だよね

路地裏

春斗「ふぅ、引きずり込みに成功」
ケイ「・・・やりすぎでしょ。　バットで殴ったら運悪いと死ぬよ」
健太「そんときはそんときだ」
ドラ「死んだら僕が困るんだけど・・・」
慎次郎「そして俺が殺人犯になっちまうんだけど」
春斗「そうなった時は自首すればいい」
慎次郎「チクショウ、人事だと思って。　・・・いや、お前らも共犯になるぞ」
健太「あ・・・」
ドラ「いいからさ、空き地に運ぼうよ」
ケイ「でもさ、怪しくない？」
ドラ「こういうときのどこでもドアー」
健太「珍しくドラえもんが役に立ってる」
ドラ「うるさいよ！」

ビョヨヨーン（ワープ音）

空き地

ジャ「なんだ？どこでもドアか？」
スネ「何があったんだろう？」

空き地に偶然いたジャイアンとスネ汚。

スネ汚がいるとなると当然・・・

ウィィィィィィン！！！！！！！！！！！！！！！！↑チェーンソーのエンジン音

健太「スネ汚しねぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！！！！！！！！！！！！！！」

スネ「うわー！！！！！何でー！！！！！？」

スネ汚は切りかかられた！

スネ「うわーん！ママー！！！！！！！！！！！」

グチャ！ビチャビチャビチャ！！！！！！！！！

ゴト・・・

スネ汚は首をチェーンソーでもがれ死んだ挙句に、体中をズタズタに切り裂かれた。

周りにはこの世のものとは思えない光景が広がっていた。

ジャ「け、警察！！！！」
健太「殺すぞ」
ジャ「行きません！」
健太「逝って良し！」
ジャ「ＨＥＬＰ　ＭＥ！！！！！！！！！！」
健太「嘘だよ」
ジャ「よかった」
ケイ（相変わらず恐ろしい奴・・・）

春斗（どっからチェーンソーを持ってきたんだ？）
ドラ（普通だったら捕まりそうな・・・）
のび「ここどこ？空き地？空き地？」
慎次郎「あ、起きた」
のび「何で空き地に？」
健太「お前には」自転車に乗れるようになってもらう」
のび「何でだよ！」
健太「いいから従え！」
のび「うひゃ嗚呼ああ！！！！！！！！！！！！」

のび太の自転車特訓は一体どんなものなのか！

次回へ続く！

路地裏に引きずり込むってだいたいが恐喝だよね（後書き）

スネ汚はやっぱり殺される。
存在価値無いからね（笑）

スネ「笑うところじゃないだろう！」

うるせぇ、ゴミ

恐怖の自転車練習（前書き）

恐怖というか拷問だったりするｗｗｗ

恐怖の自転車練習

空き地

健太「はい、それじゃあのび太には自転車の乗れるようになってもらうよ」

のび「拒否します」

春斗「お前に拒否権はない」

健太「拒否しようってもんなら・・・　しょうがない、2人とも、出てきていいよ」

パチン！

健太が指パッチンをすると出てきたものは・・・

ユウ「じゃっじゃーん！ユウちゃんでーす！」
レイ「レイくんでーす・・・」
のび「ゆ、ゆ、ゆ・・・幽霊！？」

健太の後ろから幽霊が２人飛び出してきた。

健太「さーて、拒否した場合には・・・」
ユウ「楽しいことになっちゃうよー！」
のび「・・・怖い・・・」
慎次郎「・・・ってか、お前どこから幽霊なんか連れて来た？そもそもこいつら何者だ？」
春斗「そこは確かに疑問点だな」
健太「ああ、俺の友達だけど問題あるか？」
２人「ハァ！？　お前、幽霊の友達とかいるのか！？」
健太「うーん、何と言うか・・・　あのー、アレだ。　この２人が死ぬ前からの友達だってことだ」
ケイ「ますます意味が分からない・・・」
春斗「っつーか、この辺で最近だれか死んだっけ？」
健太「アホ、まだ俺がこっちの来る前の話だ」
慎次郎「そっか、そういえば健太は小四のときにこっちに来たんだったな」
春斗「異常なぐらいに喋らないし暗いし、なんなんだコイツって思った覚えがある」
ケイ「けど、小五の夏休みが終わったあと、急に明るくなった・・・というか今の状態になったよなー・・・」
健太「まぁ、長くなるけど説明すると・・・」

２０分後

健太「・・・ってな訳だ」

春斗「へぇ～そうなんだ～」
レイ「・・・お取り込み中悪いけど・・・」
ユウ「メガネの子、逃げちゃうよ～」
健太「あー！待て！クソメガネ！」

のび太は逃走を図った。

しかし、逃げられるわけも無く捕まってしまった。

のび「うぎゃ、捕まった・・・」
ユウ「それじゃあ、メガネ君をハッピーにしちゃうよー！」
のび「ほ・・・罰とかじゃないんだ・・・」
ユウ「メガネ君が、ユーレイになるおてつだ～い」
のび「ちょ、ちょ、ちょ、まてーい！」
ユウ「では、さっそく、高圧電流を・・・」

ユウちゃんがそういうと、レイくんが高圧電流発生器を持ってきた。

健太「どうするか？練習するか？」
のび「しますしますします！！！！！！！！」

ほとんど悲鳴のようにしか聞こえなかったが、練習が始まった。

1時間後

のび「うひゃ・・・ぜんぜん乗れない」
健太「・・・どうするか？」
のび「もうやってられるかこんなこと！やめてやる！」
健太「ハァ・・・　ユウちゃん、やっちゃっていいよ」

ユウ「ピーッス！それでは～メガネ君の命を～♪どーおーしーよー♪」
のび「縁起でもない歌はやめろ～！！！」
健太「じゃあ、練習をすることだ」
のび「やりますやります！頼むから命だけはー！！！！！」

春斗「ほとんど脅しだな・・・」
レイ「・・・そうでもしないと・・・練習しないって・・・ことかな？・・・」
ドラ「のび太君は面倒なことはしないからね・・・　脅さないとしないよ」
慎次郎「ある意味酷いな・・・」

さらに1時間後

健太「おらおらおら！！！」

健太は鞭を振りながらのび太を自転車に乗せている

ドラ「なんだかんだで乗れてるじゃんか・・・」
レイ「・・・脅しが・・・効いたんだね・・・」
慎次郎「脅しって便利だね」
のび「ふふぅ～・・・なんとか乗れたぞ～・・・」
健太「計画通り」
春斗「夜神かお前は」
健太「うるさい、のろ・・・おっとっと、ぶち殺すぞ！」
春斗「ごめんなさーい！！！」

ススキ商店街の一角　小河模型店（健太宅）　健太自室

ユウ「そういえばさー、さっき思ったんだけどー」
健太「どーした？」
ユウ「健ちゃん、幽霊だって他の人には言ってないのー？」
健太「言うわけ無いじゃん、実際、僕が死んだのは最近だし」
レイ「・・・関係・・・あるの？」
健太「そもそも、死体も見つかってないわけだし、誰も知らないわけだからいいんだよ」
ユウ「そーいう問題なのかなー？」
健太「いいんだって」
レイ「・・・」

恐怖の自転車練習（後書き）

とりあえず、健太幽霊ネタに関連させて、無理矢理ギャグ要員（？）にユウちゃんとレイくんを登場させてみました。

ユウちゃん達の設定、無理矢理すぎなんだけどねｗｗｗｗｗ

あと、カットした分は、そのうち番外編で書きます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6497v/

ドラえもんおかしな小説 Ver.2

2012年1月14日15時47分発行